夕刊
磐城新聞
十月三十日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税共）
廣告料金 普通欄 一行金六拾錢 特別欄 一行金九拾錢
發行所 磐城新聞合資會社 平市
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報（小名濱測候所發表）
今晩は南の風曇一時晴
明日は北西の風曇
小雨後晴

代用教員絶讚
淡路文子

下

其所は校長さんもちやんと心得たもんで世の中は巧く出來て居ますよ、代用教員に訓導樣並みの事をやらせる校長さんなんて天下に只の一人もありやしませんでせう、校長さんは代用教員には訓導樣のする仕事の半分しか要求しないでせう、何故かつて天保錢に一人前の事が出來やう筈がないでせう、教授が思ひ切り拙くも代用だから無理もないと諦めて呉れるし、何か失敗があつても代用だから仕方が無いと許して貰へるし、生徒の成績は訓導樣の受持が滿點の時代用の受持の組は八分を超えては義理が濟みますまい『寄點が半數位でも元々師匠が天保錢なのだから弟子は師の半に如かずで當つたり前でせう。勤務振りも眞面目になる必要は勿論ないでせう、月に十日や廿日欠勤しても代用教員だと大目に見て呉れるでせう訓導樣並みに勤務しては代用と謂ふ名に對して良心に愧るから成るべく遲刻早退するやうに心掛ければ可いでせう、代用教員は就職の時も退職の時も給料は日割計算でせう、月給取りだなんて其の實日雇人足待遇でせう、又世間だつて代用教員は一人前無い奴だと思つて居るから何をしたつて責任は問はないでせう、交際や義理張は一切やる要もないでせう。だから樂をして錢を殘すのは代用教員に敵ふものは無いでせう、おまけに數へ切れぬ程人の知らない大特典はあるのですもの私は代用教員の幸福を衷心祝福する光榮を有すると共に代用教員絶讚黨で御座います

言葉の滴
北村淑夫

中

その動かし難い性格の裏打ちが時偶我々の作品に或ひは豫期せぬ成功を呼び、或ひは救ひ難い失敗を呼ぶのである

マンネリズムに墮ちるのは確かにこの性根の不幸な遊離に原因するのだ。我々は常に新しい時代を呼吸し逞ましい意欲に鞭打ち彈力あるポエヂィ實踐を企圖しなければきつと時世に取り殘される哀れな敗殘者となるであらう。魂の飛躍、換の飛躍、卽ち自己性格の撓み無き飛躍があつて始めて明日の作品たり得ることが出來ると私は深く信じてゐる

新らしいといふことは決して新らしがるといふことでは無い。常に形態上の紛飾や配列の擬態や又は語彙の輕卒な濫用で讀者を幻惑することのみが作品の新鮮さとはならないのである

要はそうした第二義的なところにあるのでは無くて、の作品内容に現代の息吹きを呼吸させることにあるではないだらうか。何々主義何々派と煩はしい程の文脈は敢て最大重要事ではないと思ふ

歌や俳句と違つて比較的淺い歴史しか持たぬ詩に於ては未だ傳統も習慣も存じてゐない。斯かる時代に於ける文脈の氾濫は單なる過渡的苦悶の一つなのであるな

故に我々が詩とは斯くあるべきであるとする定義の狹苦しいカテゴリーに束縛されることは作品の自殺をも意味する結果とならう

出征
永芳

いよ〳〵征くんだなあ
君!
一生懸命やつてくれ
御國の爲だ
後の事は
心配するな──と
云つてやりたい

君なれど──
此の群泉の中に
身内らしき者は
俺──一人
本當に君は
──一人ぼつちなんだな
あゝ門出の祝ひに
不吉の涙
ゆるせ──君
俺は何千人分の
大聲で
叫ぶぞ!いゝか!
萬歳々々々々々
バンザーイ

秋の雜詠
須田利雄

○こほろぎの遠なく原に入りて來つかかる夕べを自然と思ふ
○野の草のひ枯れひそけし暮れ殘るひかりたゆたふ路のかぎりに
○雨水の溜りゐにけるところより今朝は明けつゝこほろぎなくも
○朝の雨に垣根に沿へる百日草の青き葉莖は濡れて牢す
○明日咲かむつぼみも白き夕顔のものしづかなるに夕べよりゐつ

寄贈書目
經國（財政情報改題）十一月號（一部三十五錢税一錢五厘東京市銀座西五の五其社）

10月31日 △英詩人キーツ生（一、七九五）△賀茂眞淵歿す（明和六）△高野長英夢物語を著す（天保九）
11月1日 △佛詩人ボアロー生（一、六三六）△社會局設置（大正一二）△熱田神宮遷座祭六中全會で汪兆銘氏狙撃さる（昭和一〇）△伊首相ミラノで新外交政策を闡明（同一二）

送大竹庫君出征
珠雲　小野務平

揮毫多歳導江湖
際會風雲此起軀
鱗閣列名應不遠
欣然勇躍上征途

講談
悲戀 髑髏組（どくろぐみ）(33)
林李兵衛 作　金子士郎 畫
妬みの刄（四）

『お父上……』

父の身の上を案じて。訴ねるに出足の鈍つた藤四郎が、とつて返す隙に、二人はもう裏木戸から拔けて。外の闇に紛れてゐた。

『お父上、氣を確かにお持ち下され』

駈け寄つて藤三郎が、抱き起した時は既にもう玉の緒は絶たれ、魂魄は遠く天外に去つてゐた。

『如何なればこそお父上……』

藤三郎は、父の死骸に取縋つて、悲憤の涙にかきくれた、同時に誓ふこの復讐

『己れ、刑部、幾代……今にどうする覺悟て居れ』

其處へ家人の知せに依つて早くも駈けつけた數名の役人。

『曲者は何れに?』

『うむ、殘念ながら取り逃した、しかし行先の見當はついてゐる。拙者が案内するから同行下され度い』

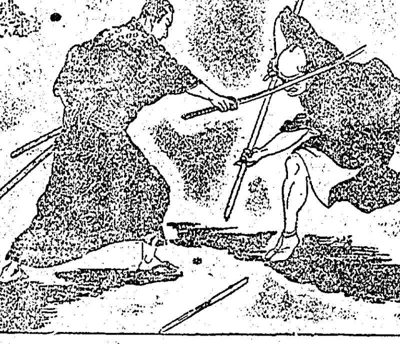
藤三郎は、家人に父の始末を頼んで、役人達の先頭に立つた。

廿日月は、いつしか仲空に舞ひ上つて、露にしつとりと濡れた田舍道を青白く照してゐる

刑部は幾代の手を取つて深夜の野道をひた走りに走つたそうしてやつと再び逃り着いた水車小屋。

『爺や、戻つたぞ!』

外から大聲に呼んだ。幾代を先に入れた。若兵衛はまだ寢もやらず、佛壇の前に端座瞑目、只管神佛の加護を二人の身の上に念じてゐた。



『おゝよくも御無事でお嬢樣……』

『爺や……』

幾代は駈け寄つて縋りついた。

『よかつた〳〵お嬢樣のお顔が見えて實はもうあれつきり、お目に掛かれぬものと覺悟してゐましたが……』

『爺もこれで、行ける所へ參られます』

若兵衛は悲壯にも、既に死を覺悟してゐるらしい

刑部は追手の樣子を氣遣はしさうに見てゐたが。次第に近寄る人馬の聲を聽覺に受けて

『駄目だ。爺や、そちも一緒に逃げてくれ』と、振り返つた

『如何にめされた御老人。さては臆病神に取りつかれての尻込みで御座るか』

小氣味のいゝ刑部の應酬に。拙りかねた藤左衛門

『えい!曲者、其處動くな!』

言葉だけは荒々しく。槍を中段に構へたが。根ッから腰が据つてゐない

『ふゝん、御老體ながら健氣で御座る』

例に依り、刀の柄に手をかけないで。靜かにニジリ寄る刑部。藤左衛門は氣が氣でない。

『藤三郎。藤三郎は居ぬか?』

『お父上……』

『馬鹿め、何をぼんやり致して居るのぢや、早く代官所へ訴へて參れ!』

『はゝう、おそまきながら用意周到。出來る事なら役人の來るまで、此處でお待ち申すのだが、それも却て御迷惑。で御老人の生命もお預けして……。幾代殿歸らうか』

刑部は、幾代を促して素早く其處を引上げやうとした。

（幾代が無事に返た以上。強いて井筒親子と爭ふ要もなし、また役人の手は絶對避けなければならない）魂膽からだ。

『逃げるか卑怯者。待て』

遁る勿な、庭先へ、我を忘れて飛び下りた藤左衛門

『動くなッ!』

と、間髮を入れぬ早業で二人を追ひ刺しに突きかけた。

『危いッ!』

刑部は、幾代の身體を聲と共に押しやつた。そうして、空を泳ぐその槍の千段をスッポリ斬り落す得意の拔き打ち。

『あッ!』

と、狼狽の藤左衛門。槍の柄を刑部目蒐けて投げつけて。ひるむ隙に柄頭を握つたが、もうその時は遲かつた。

刑部の腕にあやつられる彦四郎貞宗が、石火のやうに閃いて、二度目にねらひ落す手練の袈裟がけ。藤左衛門の左り肩から血飛沫が散つた。

『うーん……』

虚空を掴む斷末魔のうめき聲が、餘韻を永く引いて次第に細くなつて行く

移轉記念
學生大募集
仲町一番地（税務署前）
此際入學者に限り入學金を全免す
◎材料貸與學費低廉無比
◎奉仕的貸費制 苦學の便有
應召軍人子弟優遇
◎入學金免除す
◎事情により敎授料を減額す
◎裁縫材料を適宜貸與す
入學隨時●學則呈ス（郵券入封）
磐城女子洋裁學院

銃後の活躍に
絶對無故障
フタバのリヤカーと自轉車
只今製造工場と協力して銃後特別奉仕大特賣會を開催中です。
平市。新川町。郵便局前
フタバ商會

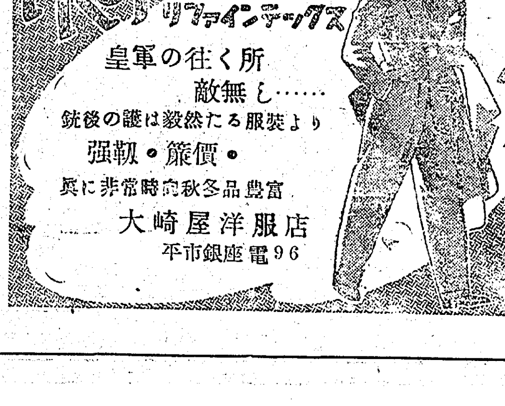
磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹 金十錢
姉妹品 柿羊羹。のり羊羹。沼ノ内辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 平屋商店 小川郵驛前

平病院
平市警察署側（元磐城共濟病院跡）（電六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科・小兒科　院長 醫學博士 鈴木定藏
産婦人科・一般外科・皮膚尿泌器科　部長 醫學士 池谷宗三郎
レントゲン科・物理的療法科　部長 醫學博士 鈴木定藏　技師 岡田重德
藥劑科　藥劑部長 藥劑師 吉本孝平
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨意（自炊ノ便アリ）
入院料 一日 特等─貳圓 一等─壹圓五拾錢 二等─壹圓參拾錢

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市紺屋町 電話六八番

産科 婦人科 花柳病科 外科
午前宅診 午後往診 入院應需
坂醫院
平市出町（元合津醫院跡） 電話五五九番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下 電話六七四
神經痛ニオレンヂ
リウマチスパスタ



時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへ
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市内…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行─直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

吸入用酸素 販賣所
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
關内藥局
電話四〇番

外科、内臓外科
エッキス光線科
新設 産婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣一
入院隨意
安齋醫院
平市田町 電話四七五番

磐中、磐女兩縣立校は 依然筆記口頭併課か

大して變らぬ考査方

縣下中等學校入學者の選拔方針如何は該當兒童を有する各家庭に對し全面的に關係を有する問題であり、殊に磐中、磐女兩縣立及び平商何れ劣らぬ入學難校の支配を受くる地方に在つては一層深刻な關心を以てその歸趨を刮目されてゐた處愈よ昨二十九日を以て縣の方針が決定發表された、之によると、人物檢査と身体檢査を綜合し之に小學校長の報告を參酌して優劣を判定し順次優良と認める者より合格を決定、優劣を判定し難き場合には抽籤によりこれを決定する、人物考査、身體檢査は左記方法による

△人物考査
人物考査は常識、素質、性行等につき口頭試問の方法によりこれを行ふ
常識考査は
一、小學校の教科に基き各方面の能力を判定し得る平易な事項に就き口頭試問の方法により行ふ
二、特別の事情により筆記試問を加ふる場合には國語、算術の二科目に限り尋常科第六學年（高等科卒業程度を以て入學資格とする學校にては高等科第二學年）の教材中より特に平易なる問題を選定しこれを行ふことを得

△身體檢査
身體檢査は體格、體質、疾病異常及體力につきこれを行ふ
一、體格檢査
二、體質疾病異常檢査
三、體力檢査
身體檢査の結果左の各項の一に該當するものは不合格とする
（一）發育、榮養の甚だしく不良にして修學に支障ありと認めらるゝもの
（二）結核性疾患（活動性のもの）を有するもの
（三）急治見込みなき傳染性疾患を有するもの
となつてゐるが、右は志望數等普通校に對する一般的規準で磐中、磐女兩校の如く志望者數が定員の一倍半以上に達するものに對しては從來通り筆記試驗も併せ課さるものと豫想さる

淺水・正木兩校長善處！ 愼重考慮に入る

右に就き地元關係校長の方針に就きその意見を求めんとした處淺水磐中校長は新聞で概要の發表を見た丈けで未だ正式の通知に接して居らぬので今の處此に對して何ら斯う考へて居らぬ、申し上げる事の出來ぬ時期を待つて欲しいとの事であり、正木磐女校長は過般東京に於ける校長會議から歸つてからズツと微恙引籠り中との中でその意見に接し得なかつたが漸く時期の切迫と共に、右に關する平常の主義主張に當局の方針を取り入れ兩者共地方の實情に適合する最も機宜の方針が決定されるであらう

跳んだり六米八五！

内郷の丹野富士男君 走巾で堂々五點獲得

神宮から

神宮への本縣代表選手として晴の檜舞台に立つた走幅跳の丹野富士男君は二十九日、六米五十の豫選通過距離を悠々跳んだ上決勝に進み六米八五の記錄をつくつて見ん事二等に入賞し堂々五點を獲得して東日本のために氣を吐いた

同君は内郷小學校の訓導で師範在學中も走巾のチャンピオンとして活躍した快活な青年訓導である、從來は磐炭チームに屬し最近の記錄は去月二十三日若松市會津中學校で擧行された本縣聯合青年團體育大會には六米三三の記錄を作つて第一位を占め、更に同月二十六日磐炭が對日立との競技大會には惡コンヂションながら六米三三を跳んでこれ亦一等になつてゐる、今度の大會にはいよ〳〵眞價を發揮してこの快記錄である

湯本愛國婦人會充實

時局で新入百余名

國防婦人會の組織によつて一時はその運命がどうなるかと危ぶまれてゐた愛國婦人會は、事變勃發以來その使命とする愛國運動を續けてゐるが最近は時局に刺戟されて入會者が多く、湯本分會の如きは事變勃發以來百四十七名の新入會員を見てゐるがその增加數に縣下分會の第三位と云ふ好成績を示し今後も益々增加する見込みであると、縣下を通しての新會員は二千五百名を突破してゐると云ふ

逆る赤誠

市内仲間町五五高萩フクさんは内職の雜巾縫ひで蓄へた金二圓を柳町一一遠藤源衛氏は亡子の法事を節約して三圓を何れも軍事後援會へ

○

下小川村青年分團では鈴木悟氏外五名が二俣神社祭典の獅子舞で得た金九圓を平署を通じ國防費へ

○

平謹法會では金五圓を醵出國防費として武藤治郎三郎氏から市役所寄託

遺家族被保險者に特典

平簡易保險健康相談所では支那事變の爲應召又は出動の軍人軍屬の遺家族たる被保險者に對し特殊診察の試驗檢査等の料金を免除することゝなつたので右加入者は非常の便宜を得らるゝと

長谷川君民友入社

長谷川吉衛君は今回福島民友新聞濱三郡支社に入り今後廣告方面を擔任すると

國婦會員が主体で 慰問袋募集開始

分會の擔當數決る

皇軍將士に對する慰問袋の募集に關しては昨二十九日午後一時から市會議事堂に各種婦人團体代表が參集、協議の結果、一戸五十錢程度とした現品の寄贈を一般から受けることになつた

これが募集は國防婦人團体が主体となり、第一、第二、第三の三分會（舊平町）は百五十個宛、第四、第五兩分會（舊平窪）は八十個宛を來月四日迄取纏めるもの

慰問袋の內容は昨報の如く腐敗、破損し易きものでなく、慰問文や銃後の活動寫眞等も同封されたく市役所では二十九日この旨各區長へ通達を依賴した

街は明るい「祝賀」の色

けふ平市の戰捷旗行列！

けふ、教育勅語渙發記念日をトして上海戰線『皇軍萬歲』の聲はドッ！と市内の隅々〳〵に沸き起つたのだ。午前九時から磐中校庭で擧行された『戰捷祝賀の式』が終へるや參列實に一萬人の市內各種學校生徒から成る旗行列の波は數班に分れて漸次市內に繰り込んだ。小旗の波、萬歲の聲、軍歌の高唱に街はたちまち明るい『戰捷祝賀の一色』——かくて行列の波は豫定の如く松ケ岡公園に吸ひ込まれて忠魂碑を參拜、意義あるけふの祝賀の幕を閉ぢた、祝賀式で述べた青沼市長の祝辭左の如し

祝賀の辭

今次の支那事變勃發以來既に四ケ月に及び吾皇軍の向ふ處連戰連勝白すも畏き極みでありますが之れ 天皇陛下の御稜威に依りますことは勿論でありまして第一線に奮闘せらるる吾將士各位の勞苦に對しましては感謝感激に堪へざるものであります而して吾皇軍は去る廿三日朝來敵の堅壘大場鎭方面に向つて總攻擊を開始いたしまして二十六日早曉先づ廟行鎭を拔き同日夕刻には遂に大場鎭を陷れ、翌二十七日の朝には江灣鎭を完全に占據して頑迷なる敵を一掃し意氣天に冲するの各部隊は敗走する敵の大軍を一氣に蘇洲河方面に强壓し一方陸戰隊は之れと呼應して廿七日朝俄然總攻擊を開始し閘北方面に於ける敵の大根據地北停車場、鐵道管理局等を初め續々敵の要地を奪取して同方面に於ける敵を殆ど掃蕩すると同時に上海と南京を繋ぐ京滬線を遮斷し從つて抗日政權の財政と重大なる關係を持つ上海が首都南京との聯絡を遮斷されるのは最早時の問題であります、軍當局が大場鎭及其の附近の陣地線を突破したと云ふことは實に上海戰線の一大紀元を劃するものであると申すことを各新聞は報道して居ります、此報一度國內に傳はるや全國各地至る處旗行列に提灯行列に吾九千萬國民歡喜に充ち滿ちて居ります、併しながら前途はまだ〳〵遼遠であります、御承知の如く世界列國の情勢は決して樂觀を許しません。若しも今回の上海戰線の勝利が戰局の一段落の如く考へ國民精神の緊張を欠くが如き事が在りましては由々しき大事であると存じます、吾々九千萬國民は今後益々緊張して擧國一致盡忠報國の精神を鞏固にし事態が如何に展開して長期に涉りまするとも堅忍持久の志を堅ふして總ゆる困難を打開し以て帝國公正なる最後の目的貫徹のために敢然として邁進するの決意がなければならぬと確信するものであります

以上一言を陳へて祝賀の辭といたします

陣中を聽く —9—

不自由な船中作業に 汚れた水で飯を焚く

入山炭礦係長 越智英勇少尉通信

——御承知の通り〇〇河利用船舶にて〇〇〇〇〇の任に當り居り候船舶一行は〇〇隻內外にて苦力〇〇〇入內外、兵一隻に〇入內外にて（中略）日程は往復とも夫々〇日、〇〇、〇日を必要と致し居り候、船舶は苦力に引つ張らせ兵隊はその監視にて、五十畑、矢吹兩君も元氣に船舶運送に苦力監視に努力致し居り候。夜は苦力と共に船中に寢居り候、附近一帶大海原に高台の部落、畑地を除きては支那柳の梢點々と頭を出し居る處に朝の太陽を拜む時、五十畑、矢吹兩君もお互それを忘れ、遂い『氣持ち良いな！』と叫び申し候

航行途中堤防には日本將兵の戰死地墓標あり、一本の木技供へあるも床しく感じ申し候、附近に支那兵の骸骨がゴロ〳〵散在し居り異臭を放ち居り候

降雨の際は船頭作業も苦痛を覺え、清水無く洗面も覺束無、大便を船尾より河中に投じ、後續船中のものそれにて炊事致し居り已むを得ざる次第に御座候

當分斯樣な作業を續け居り〇〇驛近くの駄馬は目下待機の姿勢に御座候も車中船運、行軍等激務に會ひ流產も相當有之候（中略）

矢吹、五十畑兩君も馬の手入れは既に堂に入り申し候

決して〳〵兩君御親族樣へ御休心乞はれ度御傳言御願申候、蓮沼樣の御健勝を遙かに北支より祈へ申候、青野少尉御同情に堪へず候

（十月二十三日）

註。越智少尉は早くから山口部隊に屬し北支各所の戰鬪に驍名を馳せた男士また文中矢吹（平窪）五十畑（田町）兩名何れも市出身兵である

彈丸拔きの經過は良好

報知寫眞班員 會田利彌君

廿四日長崎に歸り長崎醫大で彈を拔き取る事にしました傷は右大腿部、膝の外側から入り內側股の付けねの處で彈が止まりましたのです機關銃でやられたのです何發も來ましたがよく一發しか當らなかつたと思ひます、經過が良いので喜んでゐます、あと二十日すれば歸れるかと思ひます、江南の秋をみす〳〵捨てゝ歸るのを殘念ですが……（十月二十三日）

淨財百二十圓（有志寺院托鉢寄附）

平市並に近在有志十七寺院による皇軍慰問の托鉢は去る二十七、八の兩日に亘つて行つた結果百十八圓二十八錢の淨財を得たので二十九日恤兵資金として平市役所へ寄託

尙平善華會として二十圓好間、內郷、飯野、神谷の善華會としては各三圓宛を夫々軍事後援會へ寄附した

阿部（內務）道路課長來平

けふ國道改良工事陳情

內務省阿部道路課長、同省泉島、仙台土木出張所楠谷事務官の一行は阿部本縣技師の案內で三十日午後一時來平、新鎌田橋、同切割工事を視察したので青沼市長らは縣案の國道改良工事を陳情した、阿部課長の一行は更に植田町鮫川橋を視察した

名譽の—死傷相次ぐ

けふ原隊から發表

小名濱町下町二九〇〇上等兵富塚義利君は上海激戰で名譽の戰死を遂げた、同君の一家は數年前山形縣西田川郡加茂町から移住、母キヨさん（五七）妻フサさん（三〇）との間に子供一人、兄弟六人ある

○

貝泊村井出〇〇一等兵川部勝明、赤井村同應崎亭（舊姓田久、保原署巡査）の兩君は〇〇方面の戰鬪で戰傷死の旨三十日原隊から發表された

永野上等兵 上海で戰傷

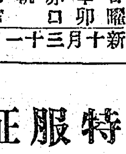
市內才槌小路辯護士永野柳造氏三男〇〇上等兵孝夫君は十六日上海方面の戰鬪で足部に名譽の戰傷を負つた同君は磐城中學から明大に學んだ

最近實家に宛『目下野戰病院で治療中だが傷は輕く、再び戰線に立つ日を期待してゐるから安心して欲しい！』旨の元氣な便りを寄せてゐる

至急募集
工場員
給仕 各一名
小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ
磐城新聞社

三十一日（小名濱測候所發表）
滿潮 前 二、一〇 後 二、〇〇
干潮 前 八、一五 後 八、五五

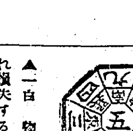
一日
滿潮 前 八、五〇 後 六、三〇
干潮 前 一、三〇 後 一、〇〇



舊九月二十八日 日曜 辛卯 赤口 執 昴宿 新十月三十一日

諸判定原鑑 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 秋晴れの淸々しき心地するが如し爭論注意▲二黑 高德人に話められ尊敬加はるべし病難注意▲三碧 築き上たり崩そ自分よりくずすの恐あり▲四綠 たゆまず自己の本分に向つて精力を注ぐに吉▲五黃 自惠の上に自重してぼうどうせざれば功現る▲六白 目前の意見に從ひ冷靜沈著なれば功擧る▲七赤 常日頃の手入れ行屆きてしうかく近づく如し▲八白 運氣旺盛にして萬事積極的の行動に出べし▲九紫 勞すれども其丈の功能現はれざる日病注意



舊九月二十九日 月曜 壬辰 先勝 破 畢宿 新十一月一日

▲一白 物事に迷ふ時はあざむかれ損失することあり▲二黑 人に係ばらず身の廻りを處理するが安全▲三碧 決心附きても直進誤多しじゆくり反復を要す▲四綠 迷退度を過ごさず成行に任せて進むが吉し▲五黃 衆人のそん敬てりとも之に甘んぜず謙讓せよ▲六白 き運開通の日けいがく徐ろに實行すれば發達す▲七赤 ちやだんより感情な傷ふとあと口なつかしむべし▲八白 自ら死地におちいるが如き日本業に出精せば吉▲九紫 空想に終りて實現にとぼし又華なつゝしむべし

看護婦及ビ見習看護婦 若干名 募集ス
希望者ハ履歷書持參本人來院セラレ度シ
北川外科
平市新川町

十月卅一日まで
月末特賣
（特價品）
ネル コンビネーション 四五才〜六七才 四〇錢 一均
子供エプロン 一五 一均
子供メリヤス 三〇 一均
毛子供セーター 一・五〇 一均
毛子供レッキング 一・〇〇 一均
厚地本毛都 一・七〇 一均
中折帽子 八〇 一均
其他問屋の半ば物大見切提供
福助足袋お買上の方に活動寫眞招待券進呈
大黑屋
電611

賣特服征出
㊢ 高島屋の洋服
廣背柄新 レンコート
品製既ニ並文注
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

社員募集
年齢ヲ問ズ
履歷書持參委細面談
平市四丁目三三
富岡事務所